

福島県におけるイネドロオイムシの殺虫剤感受性の実態

福島県農業試験場病理昆虫部・平成10年度病害虫防除試験成績概要

1 部門名 作物－水稻－病害虫防除 01－01－23000000

2 要 旨

イネドロオイムシの殺虫剤感受性の実態を把握するため、平成10年6月に、県内5地点から繭を採集し、その羽化新成虫を供試して、局所施用法により数種薬剤に対する感受性を検討し、以下のような結果を得た。

(1)ベンフラカルブに対しては、5地点中1地点の供試虫の死亡率が $0.05 \mu\text{g}$ ／成虫の薬量で40%であり、感受性の低下がうかがわれた。

(2)PHCに対しては、5地点中1地点の供試虫の死亡率が $0.5 \mu\text{g}$ ／成虫の薬量で26.7%であり、感受性の低下がうかがわれた。

(3)カルボスルファンに対しては、4地点中1地点の供試虫の死亡率が $0.05 \mu\text{g}$ ／成虫で15.0%であり、感受性の低下がうかがわれた。

(4)PMPに対しては、5地点中2地点の供試虫の死亡率が $0.25 \mu\text{g}$ ／成虫の薬量で40.0%、63.8%、3地点については $0.5 \mu\text{g}$ ／成虫の薬量で70.0%、80.0%および81.5%であり、いずれの地点の供試虫でも感受性の低下がうかがわれた。

以上のことから、同一薬剤の連用等により、感受性の低下がうかがわれる地域では、従来とは異なる系統の薬剤に変更することが必要と考えられる。